

指定年月日 平成13年2月26日

所在地 長崎市芒塚町583-2

所有者 長崎市

国道34号線日見トンネル東口の右手丘上にある俳人<sup>むかいぎよらい</sup>向井去来の句碑である。長崎の俳人達が天明4年(1784)に建立した。

去来は、中島聖堂を創建した儒医向井元升の次男で、慶安4年(1651)、長崎市<sup>うしろこうぜんまち</sup>の後興善町に生まれ、京都に出て蕉門に入り名をなした人である。元禄2年(1689)帰郷した彼が京都に帰る時、見送りの卯七との別れを日見峠で詠んだ「君が手もまじるなるべし花<sup>すすき</sup>薄」の句が刻んである中央の「句碑」、去来の紹介や漢詩を刻んだ向かって左側の「漢詩の碑」及び去来を顕彰して安政3年(1856)に建立したと見られる「献句の碑」の3基からなる。

移設前は、日見トンネル東口

の左手丘上に所在し、昭和29年(1954)に県指定史跡として指定され、長らく市民に親しまれていたが、九州横断自動車道日見インターの建設に伴い、有形文化財として現地に移設された。

